



ド、ジミー・サイター（パーカッション）の3人は、当時、ブルース・ジョンストンがテリー・メルチャーと運営していたイクイノックス・レーベル（EQUINOX/RCA配給）お抱えのリズム・セクションでもあったロードハウス・バンドのメンバー。この内、ホップスとサイター（ザ・パースやキャッシュディの元ロード・マネージャー）は、キャッシュディのレコーディングの後、同じRCAスタジオで行なわれた山下達郎のソロ・デビュー・アルバム「サーカス・タウン」（1976年12月発売）に参加、サイターは、プロデューサーとしてもクレジットされている。リッキー・ファター（ドラムス）は、南アフリカで組んでいたバンド、フレ임時代にカール・ウィルソンにスカウトされ、渡米、ピーチ・ボーイズのサポート・メンバーとして活躍、ラトルズの一員としても知られている。ブライアン・ガロファロ（ベース）は、ラス・カンゲルと組んでいたガレージ・バン

ド、シングズ・トゥー・カム出身。元キングストン・トリオのジョン・ステュワートのバック、デイヴ・メイソン・バンドを経て、デイヴ・メイソン&キャス・エリオット（ママス・アンド・ザ・パパス）、ジョー・ウォルシュ等のアルバムに参加、キャッシュディのツアー・バンドの一員でもある。パートリッジ時代のツアーにも参加しているスティヴ・ロス（ギター）は、『パートリッジ・ファミリー』以前からの友人でキャッシュディが最初に組んだガレージ・バンドのギタリスト。紅一点のグローリア・グライネル（バックグラウンド・ヴォーカル）は、元キンドレッドのメンバーで、当時、ブルース・ジョンストンとカリフォルニアというトリオを組み、イクイノックスからシングルを出していた。彼女もキャッシュディのツアー・メンバー。

ジェリー・ベックリー（バックグラウンド・ヴォーカル、ピアノ）、デューイ・パネル（バックグラウンド・ヴォーカル）は、「名前のない馬」、「金色の髪の少女」を大ヒット（共に全米No.1）させたアメリカのメンバー。サイラス・ファアヤー（バックグラウンド・ヴォーカル）は、キャッシュディも前作でカヴァーしていた「ジス・ウッド・ビー・ザ・ナイト（夢見る今宵）」のオリジナルを最初にレコーディングしたMFQ（モダン・フォーク・カルテット）のメンバー。このほか、バンド映画「サンダーボール作戦」で見事な演奏を見せたコンガの能手キング・エリソン（コンガ）やフォーク・グループ、ライムライタースとのセッションで知られるハリー・ロビンソン（バンジョー）、スタジオ・セッション・シンガーのジョン・ジョイス（バックグラウンド・ヴォーカル、チェロ）、ジム・ハース（バックグラウンド・ヴォーカル）が参加。制作中にリッキー・ファターが急病になったため、「ジャンニユアリー」のみ、当時、スティヴ・ミラー・バンドのドラマーだったゲイリー・マラーパー（ヴァン・モリソンほか）がプレイしている。ストリングス及びホーン・アレンジ担当のボブ・アルシヴァーは、アソシエーションやモンキーズ、フィフス・ディメンションを手がけた名アレンジャー。シャーリー・パートリッジことシャーリー・ジョンソンのソロ・シングル「Ain't Love Easy」のアレンジを担当したのも彼だ。

当初、ブライアン・ガロファロの繋がりからか、ジョー・ウォルシュが参加するという噂もあったが、実現しなかったようだ。レコ

ーディング中のスタジオには、スライ・ストーンやパディ・マイルス、ボイス&ハート（トミー・ボイス、ボビー・ハート）らも顔を出したというが、セッションには参加していない。

メルローズ通りのアールヌーヴェー・ミュージアムで撮られたアルバム・カヴァー、インサートのセッション風景の写真は、パートリッジ・ファミリー時代から、キャッシュディの写真を撮りつづけているヘンリー・ディルツ（MFQ）によるもの。特徴あるレタリング文字のクレジットは、イギリスやアメリカ、MFQのアルバムでも馴染みのディルツの手書きによるもの。

二つ折りのインサートには、キャッシュディ本人手書きの長文ライナーが付いており、曲ごとにレコーディングのエピソードが綴られている。今回、対訳を載せるため、解説を試みたが、癖のある筆記体のため、完璧に判読することはできなかったのが心残りだ。



本アルバムからは、米英共に「トゥモロー」、「青春は悲しみ」の2枚がシングル・カットされたが、アメリカでは不発、イギリスでは、「トゥモロー」が12位まで上昇するヒットを記録、40万枚以上を売り上げ、ゴールド・ディスクを獲得している。日本盤は、1976年4月25日に発売され、「トゥモロー」がシングル・カットされた。

収録曲目について、本人ライナーを補足する意味で簡単にメモを付けておこう。

✦ ON FIRE 「ほくは燃えている」

キャッシュディとビル・ハウスの共作。CSN&Y風のアコースティック・ギターからスタートするどこかデイヴ・メイソンを想い起させる曲だ。シングル「青春は悲しみ」のカップリング曲。

✦ DAMNED IF THIS AIN'T LOVE 「これが恋でなかったら」

キャッシュディの作詞作曲。曲調、サウンドもアメリカを想わせる爽快さに溢れている。本アルバムのタイトルは、この曲の歌詞の1節から付けられた。

✦ JANUARY 「ジャンニユアリー」

「マジック」の大ヒットで知られるスコットランド出身の5人組パイロットが1975年、全英1位（全米87位、76年）に送り込んだヒット曲のカヴァー。作者は、リード・ヴォーカル/ベーストのデイヴィッド・ベイトン（ベイ・シティ・ローラーズ〜アラン・パーソンズ・プロジェクト〜キャメル）。マーメレードやアニマル・ワッカースのカヴァーがある。ドイツでは、キャッシュディのシングル盤が出ている。

✦ A FOOL IN LOVE 「フール・イン・ラブ」

キャッシュディとビル・ハウスの共作。本人ライナーにあるトミー・ジェイムズからパクったようなギターというのは、ディレイをかけたギターのことだろうか。雰囲気は、「クリムゾン・アンド・クロウヴァー」あたりに近いと思うが。